

第3回和光市都市農業振興計画策定委員会 会議録（要録）

- 1 日 時 平成31年1月16日（水）10時00分～12時00分  
 2 場 所 和光市役所 5階 503会議室  
 3 出席者 5名

委員名	選任の区分	備考
◎郭 洋春	都市農業に関する専門的な知識を有する者	立教大学総長
○富岡 正浩【欠席】	和光市農業委員会を代表する者	和光市農業委員会会長代理
山崎 とよ子		和光市農業委員会委員
石田 秀樹【欠席】	和光市都市農業推進協議会を代表する者	都市農業推進協議会会長
阿由葉 和子		都市農業推進協議会委員
本橋 淳男【欠席】	和光市商工会を代表する者	和光市商工会事務局長
井口 和彦	公募による市民	
竹村 幸子		

◎委員長 ○副委員長

（事務局）産業支援課 深野課長、渡辺課長補佐、野口統括主査、江口主査  
 傍聴者 なし

議題1 和光市都市農業振興計画（素案）について

事務局説明

資料1 和光市都市農業振興計画（素案）

●市民アンケートについて

- 【竹村委員】市民アンケートの回答者について、高齢者の回答が多く若者が少ない。保育園などに協力をお願いしてアンケートを行えば、若い世代の意見が取り入れられたかもしれない。
- 【事務局】ホームページでもアンケートを行ったが、回答は30代、40代が中心である。なお、回答の傾向は、高齢者と大きな差は無かった。
- 【井口委員】アンケートの内容をもう少し簡単にできれば回答率が上がったかもしれない。
- 【阿由葉委員】生活クラブでは子どものイベントの際にアンケートを配布し、回答してもらっている。逆に高齢者はイベントにはあまり来ない。
- 【竹村委員】農業関係のイベントは高齢者の参加が多い。
- 【井口委員】農業者アンケートと消費者アンケートを比べてみると、農業者側と消費者側で意識がずれていると感じた。農業者は市民との交流を重要と考えている回答が多いが、市民側はそれほど重視していないことが伺える。18ページ（オ）の質問で、市民は農業に興味はあるが、時間や場所の

問題で取り組めないという意見が多い。現実的な問題でミスマッチがおきている。このため、自分で畑を借りて作るよりも、もっと手軽な収穫体験として、農業者が農産物を作っている農地で、高品質な野菜に触れてもらい、もぎ取り体験をしてもらえれば、このミスマッチを解消できるのではないか。

また、農業者は直売所を増やす等、販路の拡大を希望しているが、消費者の購入先はスーパーが圧倒的に多い。

### ●農産物の販売、販路拡大について

【阿由葉委員】 イベント等でPRする取組みとしては、通年の収穫体験イベントで呼び込んでいる市町村もある。そこは、何件もの農業者が協力して、1年を通じて多くの種類の野菜を出している。また、和光のサミットには和光の野菜は入っていないが、朝霞のサミットは朝霞の野菜が入ってる。スーパーでの取扱いを増やせないか。

【井口委員】 農業団体として卸すことができればイトーヨーカドーのように取り扱ってもらえることもできるが、個々の農業者で行うことは難しい。売れ残ったときは引き取らなければならないなどの要求が厳しいため、スーパーに卸すことはハードルが高い。なお、農作業しているとき、通行人から「ブロッコリー二つちょうだい」などと頼まれることがある。野菜の売り方は色々ある。

【竹村委員】 消費者もサラリーマンが多い。若い人は日中買いに行く暇がなく、夜10時くらいによく買物に来ている。この人たちは冷凍やレトルト食品を買うことが多い。また、サラダ系はよく買うが、大根や白菜などの大型野菜は消費しきれないとして敬遠する人もいて、1/2や1/4などのカット野菜などの量の少ないものを買いたいという声がある。多様なニーズがあるので、買える場所を増やすだけでなく、売り方の工夫をすることも大切である。

収穫体験では若い世代の募集が多い。子どもと一緒に楽しめるからである。子育て世代には需要が高いものと考えられる。

【井口委員】 需要はあるが、一つのイベントの参加者は何十人もいるわけではない。直売所が出張して、いろいろな所で売ってもらえると良い。

【竹村委員】 南は庭先販売を行っている農業者が多い。家から近ければ買いに行く人もいる。しかし、農業者の手間はかかるかも知れない。

【井口委員】 庭先販売は、スーパーに卸す手間に比べればまだやりやすい。

【竹村委員】 軽トラ市などは、販売時間は非常に限られている。庭先販売の自販機であれば、もう少し買ってもらえる機会を増やせるのではないか。

【阿由葉委員】 軽トラ市は誰がやっているのか分からないので、買わなかったという人がいた。地元農業者だと知られていないのではないか。団体名の明示な

どは必要なことである。

【 竹村委員 】 夏祭りなどのイベントで販売できないか。

【 井口委員 】 夏祭りでは野菜を販売していない。そういうイベントの参加者は野菜を  
買うつもりで来ていない。ただ、市民まつりは共進会があるので買うつ  
もりで来ている人が多い。イベントの目的に合わせて、展開しないとい  
けない。

【 委員長 】 頂いた意見は 22～23 ページの課題の中に含まれている。今後、この計  
画を推進していく中で、どこかのタイミングで中間見直しをして、どの  
ぐらい課題を達成できたのかを見て、施策の修正や発展を入れると良い  
かと思う。見直し時期の記載があってもよいのではないか。

### ●農地の保全、和光産農産物のブランド化について

【 竹村委員 】 市民が農地の保全に意識が向くようになる施策を打ち出して欲しい。

水道道路周辺の営農環境は、大型ダンプが頻繁に往来しているなど、年々  
悪くなってきている。都市農地を残そうという考え方が市民に根付けば  
こういったことも抑えられるのではないか。

しかし、農地を残すことは農業者それぞれの問題でもあるため、難しい  
とは思う。相続の際の負担を市民の寄附などで補うことはできないか。  
農地がなければ農のあるくらしは残せないと思う。

【 事務局 】 計画では、農地トラストやナショナルトラスト制度の研究などの施策で、  
農地の保全や利活用を支援していくとしている。

また、もっと手前でできることとして、わこ産わこ消サポーター制度の  
導入を推進し、販売情報などの配信を通じ、農産物の供給と消費の拡大  
を行う事で農業者の支援ができるものと考えている。

【 井口委員 】 将来像は、和光市のほとんどの農業者の本音が反映されているものにな  
っていると思う。基本目標も良く整理されている。

ただ、26 ページの和光ブランドの創出（6次産業化）という部分につい  
てはあまり重視していない。これまでも大きくヒットした商品はないし、  
多少ヒットしてもあまり拡大できていない。わこ産わこ消の推進に重点  
を置いた方がよいのではないか。和光市産の農産物をブランド化するに  
あたり、和光市産の野菜はどんな特徴があるのか、キャラクター設定の  
ようなものを明確にした方がよい。例えば、消費者が何を望んでいるか  
についてのアンケートでは、品質や新鮮さが求められていることが分か  
る。これを重視しているのであれば、和光市産は、とにかく新鮮である。  
和光市産を選べば、パリっとした美味しい野菜が食べられる。このよう  
に分かりやすいものであれば、消費者だけでなく生産者も楽である。「そ  
の日収穫したものだけを売る」これがわこ産だとすれば消費者にも分か  
りやすい。野菜を洗うのは手間が掛かるが、数が少なければ丁寧にでき

る。「和光の野菜は良い野菜。間違いがない。」このようなイメージを作ることがブランド化ではないか。

また、消費者は、農地の保全を考えなくて良いと思う。農業者としても、野菜を買ってくれば農地は残せる。農業を続けていけるかどうかは損益分岐の話である。この経営状況であれば継がせられるか、継がせられないかの判断は個々の家の問題なので、市や周囲の支援だけで解決するものではない。農業者としては、相続税納税猶予や生産緑地の営農義務を緩和してもらうことが一番助かる。例えば、5年刻みで設定できるようにして、自動更新を認めなければ、どの農業者もしっかり農業を行い、農地も売らずに残るのではないか。

また、26ページ4番の市民農園の利用促進についても重点でなくてもよいのではないか。市民アンケートのとおり、興味はあるができない人が多い。むしろ食農教育の推進に重点をおいてほしい。子どもだけでなく親にも興味を向けてほしい。

- 【 委員長 】 重点施策の変更は可能ですか。
- 【 事務局 】 ご意見を踏まえて、変更する。

#### ●環境保全型農業について

- 【 竹村委員 】 環境保全型農業の施策は具体的にないのか。市民がどこで参画していけるかを示すべきである。畑が身近にあることが、子ども達にも良い環境になる。市民が農地を残す意識があると良い。
- 【 事務局 】 30ページに環境にやさしい農業の推進として盛り込んでいるほか、29ページに農地の保全のため、農業委員会が指導するとしている。
- 【 竹村委員 】 農地そのものの環境保全が和光市の売りになると思う。そこで作った野菜がよい野菜になる。3章の話にはなるが、基本目標にも盛り込んだほうが良いのでは。農地を残していくという市の姿勢を示して欲しい。
- 【 委員長 】 計画を作るということは、農地を残すことを前提としている。また計画は都市農業振興基本法に基づいて作成しているため、計画で明確にしていけないから取り組まないというわけではない。法律を前提とした上で、重点的に取り組んでいくものを示していると解釈している。
- 【 井口委員 】 農業者側は、環境保全型農業ができていて当たり前のものであり、できていないとそもそも出荷できない。
- 【 事務局 】 エコファーマーやS-GAPの取組みでも農地の環境保全の考え方は含まれている。用語解説をいれることでフォローしていきたい。また、30ページの(5)の環境にやさしい農業の推進の部分で、環境保全について追記する。

●農福連携について

【 竹村委員 】31 ページの（5）の農福連携は、農業と福祉の連携にした方がよい。タイトルを読んで、すぐ分かるものがよい。他市では、障害者の就労支援につながっているところもある。

【 事務局 】農業と福祉の連携に変え、併せて表記を見直す。

議題2 その他について

事務局説明

今後のスケジュールの説明

【 委員長 】本日の議題は以上となります。これで会議を終了します。